

Rec'd PCT/PTO 24 JUN 2005

PCT/JP2004/010330

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

23.07.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

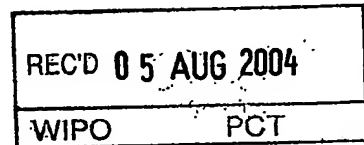
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年12月26日

出願番号  
Application Number: 特願2003-434123

[ST. 10/C]: [JP2003-434123]

出願人  
Applicant(s): 株式会社新盛インダストリーズ

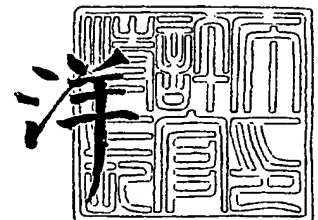


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 9月 3日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川



出証番号 出証特2004-3079222

【書類名】 特許願  
【整理番号】 PH15-13  
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿  
【国際特許分類】 B65C 11/02  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都北区堀船4丁目12番15号 株式会社新盛インダストリーズ内  
    【氏名】 柳田 広  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都北区堀船4丁目12番15号 株式会社新盛インダストリーズ内  
    【氏名】 高橋 昇治  
【特許出願人】  
    【識別番号】 591110078  
    【氏名又は名称】 株式会社新盛インダストリーズ  
    【代表者】 和田 隆彦  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 055011  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1

## 【書類名】 特許請求の範囲

## 【請求項 1】

後端にグリップを形成している本体と、

前記本体に枢支され、枢支点を挟んだ一端が操作部で、他端が部分歯車部であり、該操作部が前記本体のグリップから離反する方向のバネ付勢が与えられ、該バネ付勢に抗したグリップとの間の把握操作によって該部分歯車部を往動回動させ、その把握操作が解除された時に該バネ付勢によるグリップからの釈放動作によって該部分歯車部を復動回動させる手動レバーと、

台紙上に多数のラベルを間隔が空くように順次連続して仮着させているラベル連続体を収容する本体に配置されたホルダー部と、

前記本体の先端に回転可能に配置された貼付ローラと、

前記ホルダー部から繰り出される前記ラベル連続体の移送方向における前記貼付ローラの上流側直近に位置して前記仮着されたラベルを剥離させて該貼付ローラの下側に臨ませるために前記台紙の移送方向を反転させる本体に配置された剥離ピンと、

移送方向を反転した前記台紙を前記本体の底部に挟み込み、該台紙の反移送方向への戻りを防止する底蓋と、

前記底蓋に挟み込まれた前記台紙に反底蓋側から対向すると共に、前記手動レバーにおける部分歯車の往復回動力が伝達されて、前記台紙に影響を与えない往動と該台紙を移送する復動を行わされる本体に配置された台紙移送部材と、

前記台紙移送部材の往動時には前記台紙に逃げ方向に接して該台紙上を滑動し、復動時には前記台紙に食い込み該台紙を反転方向へ移送する働きをする該台紙移送部材に配置された台紙移送爪と、

前記台紙移送部材の復動を前記ラベルの長さに応じて途中で停止させられるために他の部材によって係止される該台紙移送部材に配置された停止爪と、

前記他の部材に相当する停止作用部を備え、前記本体に枢支された自動停止部材と、

前記本体に枢支され、前記手動レバーまたは前記台紙移送部材によってその往動の終盤に回動させられる停止解除部材と、

前記本体に枢支されていると共に、前記自動停止部材を遊嵌連結し、該停止作用部が前記台紙移送部材の停止爪から離反する方向の力として作用する作動習性が与えられている連結部材と、

前記連結部材に枢支され、前記自動停止部材が前記停止解除部材の回動により押圧され、該連結部材を介した作動習性に抗して反対方向に回動させられることによって、それまで剥離待ちしていたラベルの前縁を受け止めていた状態から離れるように上昇し、また、前記手動レバーまたは前記台紙移送部材の復動に連動してその直後に、該自動停止部材が該停止解除部材の回動による押圧を解かれて、該連結部材の作動習性が作用することによって、前記剥離して行くラベル上に降下して前記台紙の移送に伴う次のラベルにおける前縁到来に待機し、且つ該連結部材との間にバネが張設されいるラベルセンサとからなり、

前記手動レバーの釈放動作によって前記台紙が移送されることにより、前記ラベルセンサが前記次のラベルにおける前縁の当接により反力を受けてバネの張力に逆らって変位して、ひいては前記連結部材の作動習性に抗した回動を介し前記自動停止部材が回動することで、前記停止作用部により前記停止爪を係止して前記台紙移送部材の復動をラベルの長さに対応した量で停止させ、次のラベルを剥離させる準備のための、該手動レバーの前記グリップに対する把握動作量が、ラベルの長さに略比例するようになっていることを特徴とするラベル貼着機。

【書類名】明細書

【発明の名称】ラベル貼着機

【技術分野】

【0001】

本発明は、台紙上に多数の印刷済みラベルを間隔が空くように順次連続して仮着させているラベル連続体におけるラベルを対象物に貼着するラベル貼着機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

この種のラベル貼着機は、ラベルの長さ（ピッチ）で言うと、機構上許される最大長のものから、制限はあるもののそれ以下の長さのものが取り扱える。

【特許文献1】特開平01-099946号公報

【特許文献2】米国特許第4986874号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

従来のラベル貼着機は、本体のグリップに対する本体に枢支された手動レバーの把握動作（操作）及び釈放動作において、把握動作を初期からラベルを剥離させるための前記台紙を移送する工程とし、釈放動作が単に手動レバーの復帰工程であり、ラベルを台紙から剥離して繰り出させる本体のグリップに対する手動レバーの把握操作量が、ラベルの長さに比例して多くなるもので、換言すれば、短いラベルほど、把握操作の停止される時期が早く、把握操作が手を充分には握っていない突っかかる感じで、その早い時期（少ない量）での充足感の無い把握操作の繰返しは、人間工学的に疲れ易いものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本体のグリップに対する本体に枢支された手動レバーの把握動作（操作）及び釈放動作において、把握動作を釈放動作のための離反（付勢）力を蓄積し、且つ、ラベル連続体における台紙を移送しない工程とし、また釈放動作を初期からラベルを剥離させるための前記台紙を移送する工程とし、そして、その手動レバーの釈放動作を、次のラベルの前縁を検出することにより、ラベルの長さに略比例するグリップから離反した量の位置で自動的に停止させ、次のラベルを剥離させる準備のための、手動レバーのグリップに対する把握動作がその停止位置から把握操作を完遂する状態まで行われるようにすることを最も主要な特徴とする。

【発明の効果】

【0005】

本発明のラベル貼着機は、本体のグリップに対する本体に枢支された手動レバーの把握完遂状態からの釈放動作の初期から、ラベル連続体における台紙の移送を行わせてラベルを剥離させて行くと共に、台紙の移送過程で次のラベルの前縁を自動的に検出させることにより手動レバーの釈放動作を停止させ、次のラベルを剥離させる準備のための手動レバーの把握動作（操作）が、ラベルの長さに略比例するグリップから離反したその停止位置から把握完遂状態まで行われるので、その把握操作は、常に充足感があり、疲れ難いものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

本発明のラベル貼着機は、グリップを形成した本体に、グリップから離反する方向の付勢力を与えられて枢支された手動レバーの、グリップに対する把握動作及び釈放動作において、把握動作を、ラベル連続体におけるラベルを剥離する台紙の移送には関与せずに、手動レバーの釈放動作のための付勢力蓄積工程とし、一方、釈放動作を、その初期からラベル連続体におけるラベルを剥離する台紙の移送工程とすると共に、台紙の移送過程で次のラベルの前縁を自動的に検出させることにより手動レバーの釈放動作を停止させ、そして、次のラベルを剥離させる準備のための手動レバーの把握動作（操作）が、ラベルの長

さに略比例するグリップから離反したその停止位置から把握完遂状態まで行われるようにすることである。

【実施例 1】

【0007】

以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

【0008】

図1は本発明におけるラベル貼着機の外観を示す側面図、図2は図1からラベルホルダー部を含む手前の側板を取り除いてラベル貼着機の要部を示す静止（手動レバーの釈放がラベルの長さに対応したグリップから所定量離れた位置で停止させられている）状態の側面図、図3は図2と同じく手動レバーの把握完遂状態の側面図、図4は図3と同じく手動レバーの釈放初期状態の側面図、図5は図1における5-5線断面図、図6はラベル連続体における台紙の移送機構部と底蓋の展開斜視図、図7は移送機構部に対する自動停止機構部及び停止解除機構部の展開斜視図、図8は自動停止作用を説明する展開斜視図である。

【0009】

図1～5において、本体10は、奥側の側板10Aと手前の側板10Bとによって構成され、前端の側板10Bの手前側に前端フレーム11（図7参照）を介して軸10Cに貼付ローラ12を枢支し、後端に各側板10A、10Bの延出部10Aa、10Baによって下側が開放されたグリップ13を形成している。

【0010】

また、側板10Bの中央上部は、ラベルホルダー部を構成していると共に、その丁部に突き出し状のホルダー軸10Bb（図5参照）を一体形成し、該ホルダー軸10Bbの突き出し端部に対して、ラベル連続体（ラベルロール）のためのロール押さえ14が一体形成しているホルダー軸14Aによって着脱されるようになっている。なお、その着脱は、ホルダー軸10Bbの突き出し端部にホルダー軸14Aを嵌合させて、ロール押さえ14を回動させた時の、その嵌合部における弾性による変形と復元の作用によって行えるようになっている。

【0011】

更に、貼付ローラ12の手前（上流側）に、側板10Bにおける手前側のU字状溝10Bbをガイドとして左右方向に位置調整が可能で、所定の位置でネジ止めすることにより半固定できるように剥離板15が配置され、該剥離板15は、上面をラベル受け面15Aとして形成しており、また、左方の先端に、剥離ピン16を枢支している。

【0012】

また、側板10Aと10Bとの間に軸10Dによって手動レバー20が枢支され、該レバー20は、軸10Dを挟んだ一方がサーベル状の操作部であり、他方に部分歯車20Aが形成されていると共に、本体10との間に張られた引っ張りバネ21によって操作部側がグリップ13から離反しようとする方向である時計方向の回動習性が与えられている。なお、図1と図2は同じ状態を示しているものであるけれども、図1の手動レバー20は、本機で取り扱える最大長さのラベルを装填している場合の離反制限位置にある静止状態で、図2の手動レバー20は、図1の場合よりも多少短いラベルを装填している場合のそのラベルの長さに略比例した離反途中位置にある静止状態である。

【0013】

更にまた、同じように軸10Eによって送りレバー30（図6参照）が枢支され、該レバー30は、手動レバー20の部分歯車20Aに直結する部分歯車30Aと、長溝30Bと、側面に軸中心からの円弧面になっている浅い窪み30Cとを形成している。

【0014】

図6を中心に、レバー30の長溝30Bに摺動連結される台紙移送ブロックを説明するが、先ず、本体10の下部における奥側で上下に2本配置された案内ロッド10F、10G（図2～5参照）に対して、略U字形の摺動基体31が自身に形成した上下の長孔31F、31Gを嵌合させて摺動可能に支持され、また、該基体31は、奥側の外面に軸31

Aによって摺動駒32を取り付け、そして、該駒32を送りレバー30の長溝30Bに嵌合させて、駒32での長溝30Bの摺動を許容して、回動運動が直線運動に変換されるようにしている。

#### 【0015】

また、摺動基体31には、その内部に軸31Aによって送り歯フレーム33が回動可能に支持されていて、該フレーム33は、下方（底蓋）に向かう方向に山形歯を形成した送り歯34を左右両面に取り付けていると共に、コイルバネ35によりそれほど強くない時計方向の回動習性が与えられているが、その時計方向の回動は、左側の送り歯34における外面が、基体31におけるU字形底部の側面31Bに当接した状態で制限されるが、反時計方向の回動は、バネ35に逆らうけれども逃げ勝手になっている。

#### 【0016】

更に、同じように、軸31Cによって停止フレーム36が回動可能に支持されていて、該フレーム36は、右方先端において上向きに停止検知片37を取り付けていると共に、コイルバネ38により反時計方向の回動習性が与えられているが、その反時計方向の回動は、アーム36Aが摺動基体31の張り出し部31Dに当接した状態で制限されている。

#### 【0017】

また、本体10の底部には、底蓋39が配置されていて、該底蓋39は、奥側の両端に柱39A、39Bを立てていて、それに形成した孔39Aa、39Baを案内ロッド10Gに嵌合させることで本体10に枢支され、また、柱39Bに係止アーム39Cを連設していると共に、右端に台紙のためのカッター部39Dを形成し、更に、左端近傍に戻り防止歯40を取り付けている。そして、係止アーム39Cは、先端に段部39Caと傾斜面39Cbとを形成していて、側板10Bの内側に配置された係止解除摺動板41と関係する。

#### 【0018】

係止解除摺動板41は、側板10Bの手前側の表に突出する摘み41Aと、係止アーム39Cの先端に対向する左上を直角とした略三角形の柱体41Bとを形成していると共に、右方へ摺動する作動習性が与えられており、その右方制限位置で柱体41Bの平面部が係止アーム39Cの段部39Caの下に入り込んでいて、底蓋39を閉鎖状態に係止しているが、摘み41Aによって作動習性に抗して左方へ摺動され、柱体41Bの平面部が係止アーム39Cの段部39Caから外れた時に、底蓋39を自重で開放させ、摘み41Aから手が放されれば、摺動板41自身のみが作動習性によって右方制限位置へ復帰する。一方、裏蓋39を開放状態から閉鎖させると、反時計方向の回動過程で、係止アーム39Cの斜面39Cbが柱体41Bの右下方向に面した斜面を押し上げるように作用するので、係止解除摺動板41が作動習性に抗して左方へ摺動され、そして、その斜面と斜面の係接が外れた時点で押し上げ作用が消滅するので、その直後に柱体41Bの平面部が係止アーム39Cの段部39Caに対向すると、摺動板41が作動習性により右方制限位置へ復帰し、平面部によって段部39Caに係止して、その閉鎖状態が保持される。

#### 【0019】

図7及び8を中心に、台紙送りの自動停止ブロックと停止解除ブロックとを説明する。

#### 【0020】

本体10の内部には、軸10H（図2参照）によって左右に延びた停止レバー42が枢支され、また、側板10B側の軸10I（図2参照）によって停止解除板43が枢支されている。

#### 【0021】

前端フレーム11は、本体10における側板10Bに対して、一端が軸10Aにより止められている外、他端も軸10Bにより止められているので、本体10に固定された形になっており、また、側板側にのぞき孔11Aを形成しており、補足すると、該のぞき孔11Aは、同じ位置にある側板10Bの貫通孔（図示せず）に対向しているものであり、更に、他の機能部分として、右端に立ち下がった壁11Bを形成している。

#### 【0022】

ラベル押さえ44は、軸10Bに枢支されていると共に、軸部に近いところの一对の張り出し44Aと、幅広で、薄くて長いラベル押さえ部44Bとを形成していて、一对の張り出し44Aが前端フレーム11の壁11Bに当接した以後は、時計方向に回動できなうので、ラベル押さえ部44Bが前記剥離板15におけるラベル受け面15Aに弾接する。

【0023】

連結フレーム45は、軸10Bに枢支されていると共に、前端フレーム11の壁11Bとの間に張設された圧縮バネ46により反時計方向の作動習性が与えられており、また、一端がぞき孔11Aを貫通して本体10の内部に侵入する連結ロッド47を枢支している。

【0024】

ラベルセンサ48は、前記連結ロッド47に枢支されていると共に、前記連結フレーム45との間に引っ張りバネ49が張設され、該引っ張りバネ49の一番ストレスが少ない状態で、静止状態（常態）に置かれる。

【0025】

前記停止レバー42は、右翼42Aに溝42Aaを形成していると共に、鋸歯50Aを形成している鋸歯板50を取り付け、また、左翼42Bに形成した長孔42Baに前記連結ロッド47の一端を遊嵌させる。

【0026】

前記停止解除板43は、前記送りレバー30における左側の側面に対向するピン43Aを奥側に向かって植設していると共に、前記停止レバー42の溝42Aaに対向する突起43Bを手前側に向かって形成している。

【0027】

次に、本発明の上記実施例に係るラベル貼着機の全体動作について説明する。

【0028】

始めに、図1及び5を参照して、ロール押さえ14を、反時計方向へ回動してホルダー軸10Bbの端部から外し、そのホルダー軸10Bbに、台紙S上に多数のラベルLを間隔が空くように順次連続して仮着させているロール状のラベル連続体Rを通し、その後再びロール押さえ14をホルダー軸10Bbの端部に嵌め、時計方向へ回動させて固定し、ホルダー軸10Bb及び14Aによりラベル連続体Rを装架する。

【0029】

次に、ラベル連続体Rから引き出した台紙SにラベルLを仮着した部分は、剥離板15におけるラベル受け面15Aとラベル押さえ44におけるラベル押さえ部44Bとの間に通す。そして、図6も参照して、摘み41Aを持って係止解除摺動板41を作動習性に抗して左方へ摺動させて、柱体41Bを係止アーム39Cの段部39Caから外して、底蓋39を自重で開放させ、ラベルLを剥がして台紙Sのみにした部分は、剥離ピン16で転向させて、底蓋39の内側となる本体10の底部を這わせ、その後に底蓋39を閉鎖させる。この結果、台紙Sは、ラベルLを剥がした表側で底蓋39に取り付けた戻り防止歯40と対向し、裏側で反底蓋側に位置する送り歯34に対向する。

【0030】

図2及び8の状態は、ラベル貼着機としての静止状態で、即ち、ラベルセンサ48としては、ラベルLにおける前縁の当接を受けて、引っ張りバネ49に抗する反力で、常態からつま先立ちするように連結ピン47上で反時計方向へ回動し、その結果、連結フレーム45を圧縮バネ46の付勢力に抗して時計方向へ回動させ、従って、連結ピン47と長孔42Baの遊嵌（図7参照）を介して停止レバー42を時計方向へ回動させ、依って、停止レバー42に取り付けた鋸歯板50の鋸歯50Aが、送りレバー30に連なる停止検知片37（図6参照）に対して食い込み方向で係合して、手動レバー20が、ラベルLの長さに対応した釈放動作の途中位置（本機で使用する最長のラベルを装填している時には図1の状態になる）で、停止させられている状態である。

【0031】

ラベルセンサ48に止められているラベルLを剥離させようとするために、図2の状態

からグリップ13に対する引っ張りバネ21の張力に抗した手動レバー20の把握動作（反時計方向の回転）を開始すると、部分歯車20Aと部分歯車30Aとの噛み合いから送りレバー30が時計方向へ回転して、摺動基体31の案内ロッド10F、10Gにおける左方への摺動に伝達される。

#### 【0032】

摺動基体31の左方への摺動において、停止検知片37が、停止フレーム36の摺動基体31上でのコイルバネ38による張力に抗した時計方向の回転を可能にしていることから、鋸歯50A上を逃げ方向に滑動し、また、送り歯34が、送り歯フレーム33の摺動基体31上でのコイルバネ35による張力に抗した反時計方向の回転を可能にしていることから、台紙S上を逃げ方向に滑動し、そして、送り歯34の台紙Sに対する滑動摩擦が、台紙Sを左方へ戻そうとする方向の力ではあるが、それに逆らう方向で底蓋39に取り付けられた戻り防止歯40が配置されているので、台紙Sの戻りはない。

#### 【0033】

また、送りレバー30の時計方向への回転の終盤において、該レバー30における左側の側面の斜面から窪み30Cにより、ピン43Aを捕捉して停止解除板43を時計方向へ回転させ、突起51Bによって停止レバー42の右翼42Aにおける溝42Aaを押させる。

#### 【0034】

この結果、停止レバー42が連結フレーム45を介した圧縮バネ46の付勢力に抗して時計方向に回転され、ラベルセンサ48が、剥離板15から離れるように上昇し、同時に止めていたラベルLからも離れるので、反力を解かれて、引っ張りバネ49による静止状態（常態）に戻り、この把握の完了状態が図3である。

#### 【0035】

図3の状態から手動レバー20に対する把握を開放すると、蓄積された引っ張りバネ21の張力により手動レバー20がグリップ13からの解放動作（時計方向の回転）を開始して、送りレバー30を反時計方向へ回転させ、以て摺動基体31を右方へ摺動させる。

#### 【0036】

摺動基体31の右方への摺動において、送り歯フレーム33の時計方向の回転が側面31Bによって制限されているので、送り歯34が台紙Sに対して食い込み方向で係合して台紙Sを右方へ移送し、ラベルLを剥離ピン16のところで自己の剛性で剥離させ始め、また、停止検知片37が停止レバー42の右翼42Aにおける鋸歯板50の途切れている部分（本機で使用を制限している長さの短いラベルに相当する範囲）に対向して右方へ移動し始める。

#### 【0037】

また、送りレバー30の反時計方向への回転において、溝30Cがピン43Aの捕捉を解除するために僅かであるが所定の回転量を要するので、回転の開始時点よりも少し遅れて停止解除板43が自由になった時点から、突起43Bによる溝42Aaへの拘束力が無くなって、停止レバー42が連結フレーム45を介した圧縮バネ46の付勢力によって反時計方向へ回転させられるので、左翼42Bの長孔42Baに遊嵌した連結ロッド47を介してラベルセンサ48が剥離し始めたラベルLの上に降下して次のラベルLにおける前縁の到来に待機すると共に、右翼42Aに取り付けられた鋸歯板50が停止検知片37の移動軌道から退避するように上昇し、この回転の途中状態が図4である。

#### 【0038】

この引っ張りバネ21の復元による手動レバー20の解放動作によって台紙Sが移送されて、先頭のラベルLが剥離して行き、そして、次のラベルLの前縁がラベルセンサ48によって検出されて、機構全体がラベルLの長さに応じて自動的に停止する動作は、段落0030の説明と同じである。

#### 【0039】

そして、後縁部を残して大部分が剥離しているラベルLを、糊面を以て対象物に貼付ローラ12で押しつけ、そして本体10を手前（右方向）へ引けば、その貼付が行える。

## 【0040】

また、カッター部 39D のところから本体 10 の外部へ垂れ下がった邪魔な台紙 S は、そのカッター部で手前から奥に向かって押し下げると、切断することができる。

## 【0041】

なお、停止解除板 43 への制御を、送りレバー 30 で行っているが、手動レバー 20 で行わせるようにすることもできる。

## 【産業上の利用可能性】

## 【0042】

貼付対象物の正体表示に適用できるものである。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0043】

【図 1】本発明におけるラベル貼着機の外観を示す側面図である。（実施例 1）

【図 2】図 1 からラベルホルダー部を含む手前の側板を取り除いてラベル貼着機の要部を示す静止状態の側面図である。（実施例 1）

【図 3】図 2 と同じく手動レバーの把握完遂状態の側面図である。（実施例 1）

【図 4】図 3 と同じく手動レバーの釈放初期状態の側面図である。（実施例 1）

【図 5】図 1 における 5-5 線断面図である。（実施例 1）

【図 6】ラベル連続体における台紙の移送機構部と底蓋の展開斜視図である。（実施例 1）

【図 7】移送機構部に対する自動停止機構部及び停止解除機構部の展開斜視図である。（実施例 1）

【図 8】自動停止作用を説明する展開斜視図である。（実施例 1）

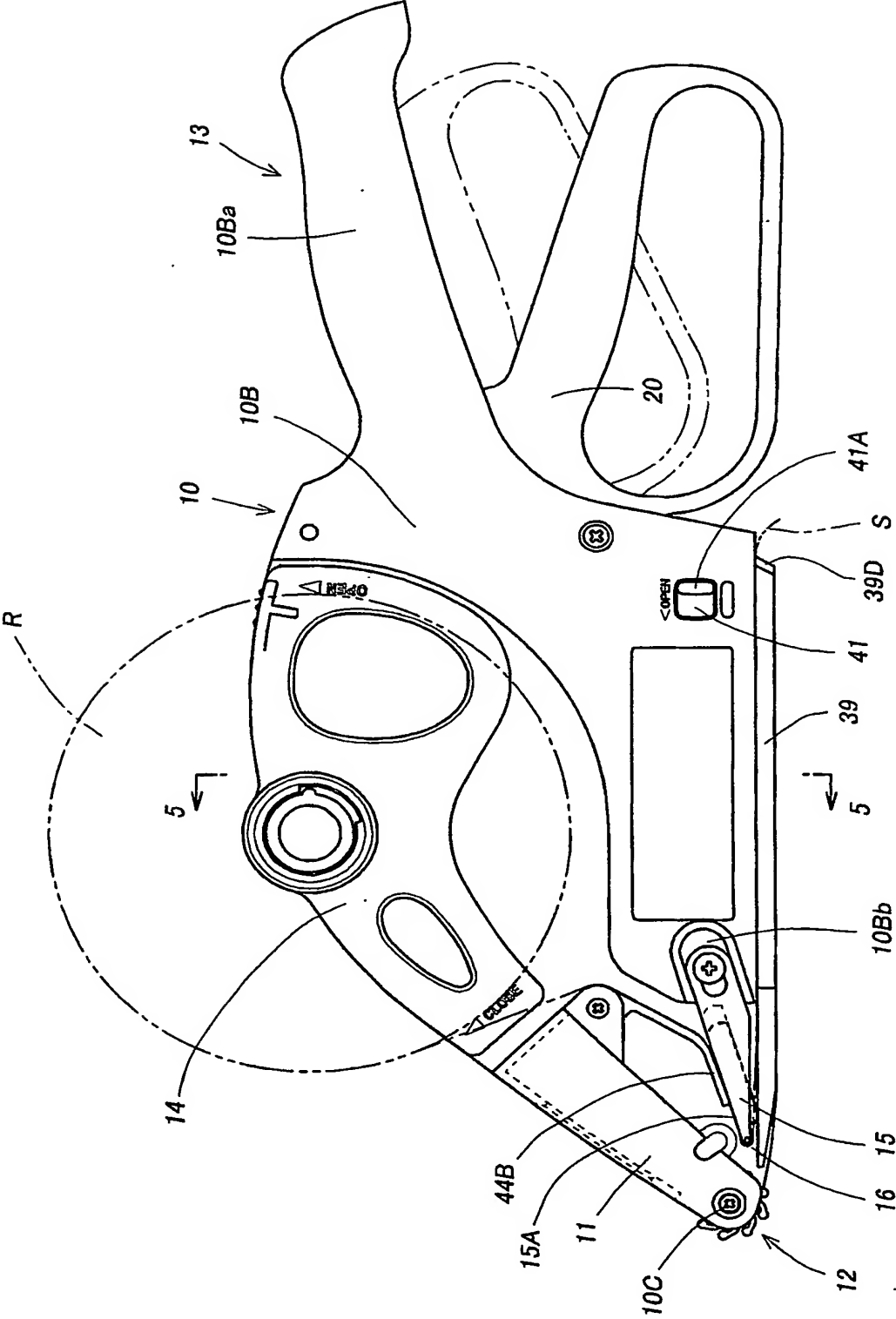
## 【符号の説明】

## 【0044】

10	本体
10A, 10B	側板
10Bb	ホルダー軸
10F, 10G	案内ロッド
11	前端フレーム
12	貼付ローラ
13	グリップ
14	ロール押さえ
14A	ホルダー軸
15	剥離板
16	剥離ピン
20	手動レバー
20A	部分歯車
21	引っ張りバネ
30	送りレバー
30A	部分歯車部
30B	長溝
30C	窪み
31	摺動基体
31F, 31G	長孔
32	摺動駒
33	送り歯フレーム
34	送り歯
35	コイルバネ
36	停止フレーム

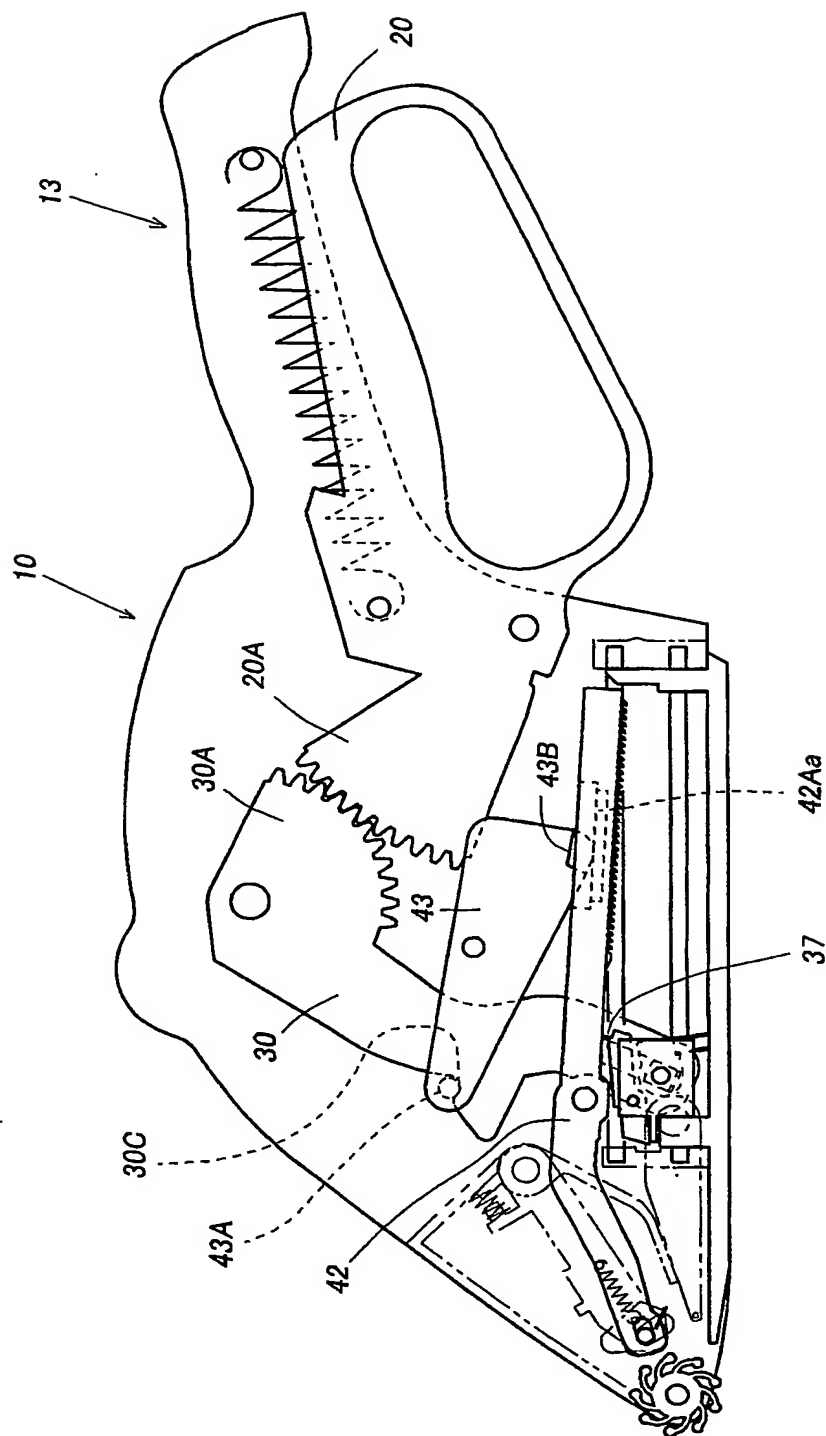
3 7	停止検知片
3 8	コイルバネ
3 9	底蓋
3 9 C	係止アーム
3 9 D	カッター部
4 0	戻り防止歯
4 1	係止解除板
4 1 A	摘み
4 1 B	柱体
4 2	停止レバー
4 3	停止解除板
4 4	ラベル押さえ
4 5	連結フレーム
4 6	圧縮バネ
4 7	連結ロッド
4 8	ラベルセンサ
4 9	引っ張りバネ
5 0	鋸歯板
5 0 A	鋸歯

【書類名】 図面  
【図 1】

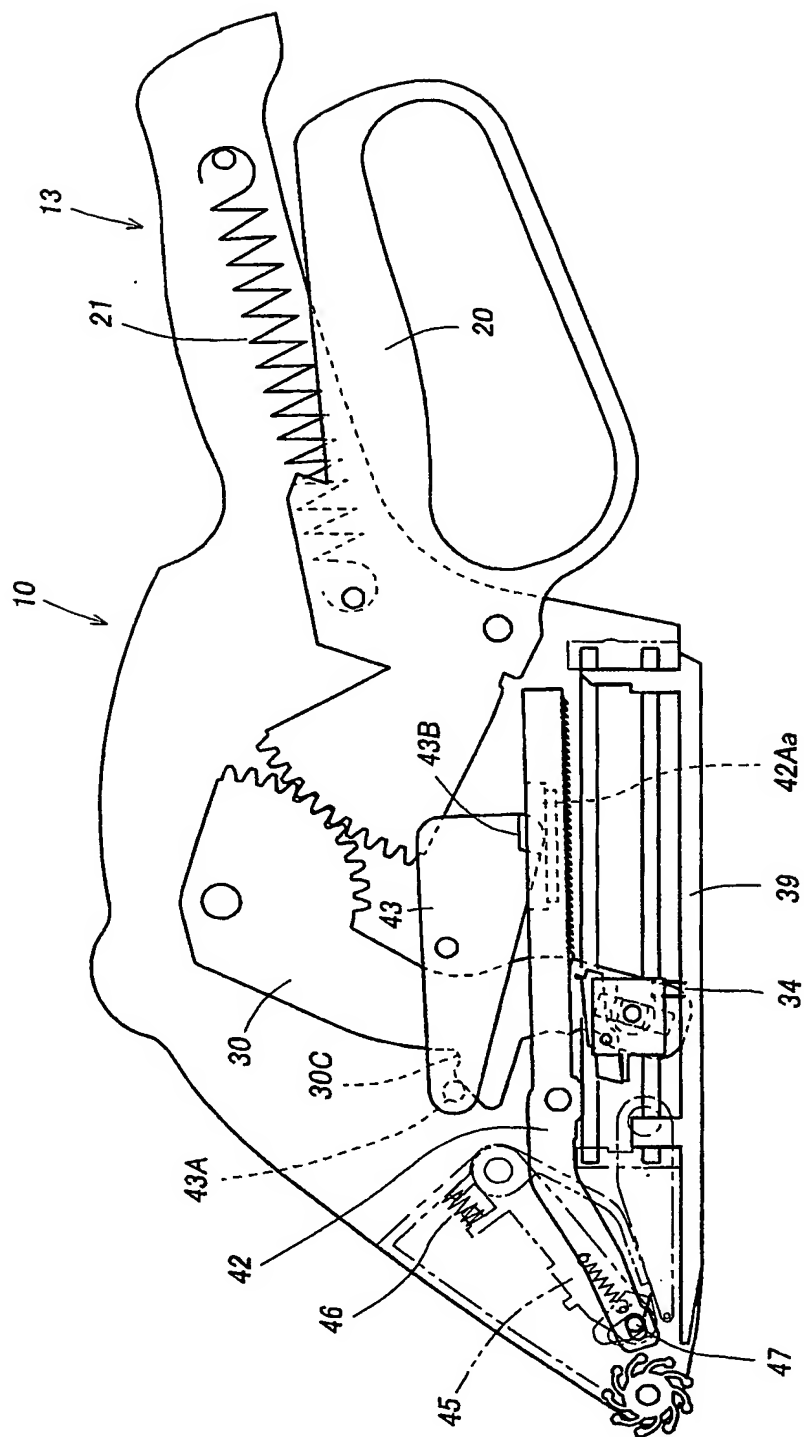




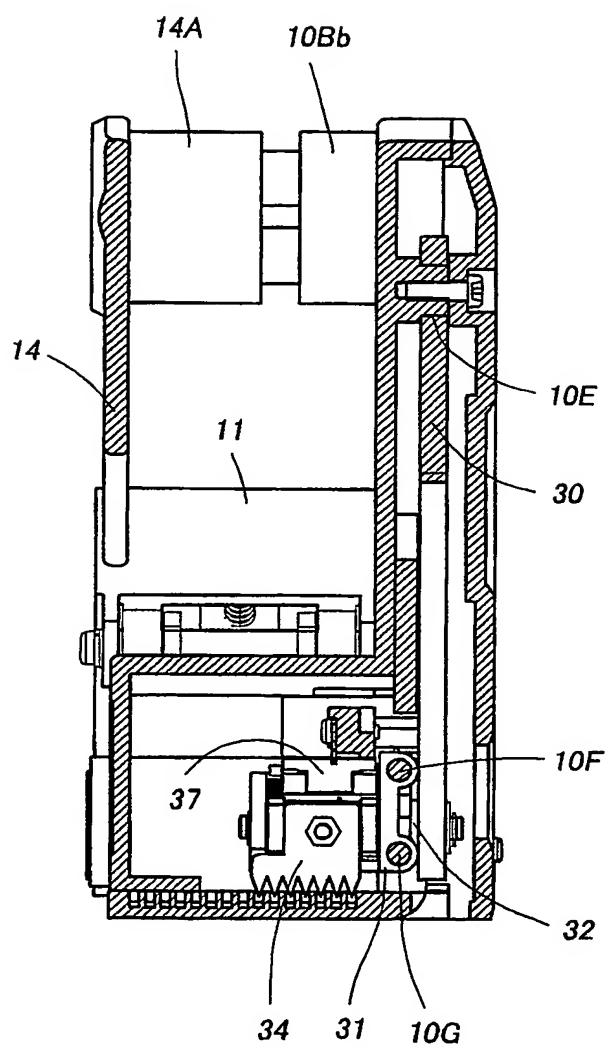
【図 3】



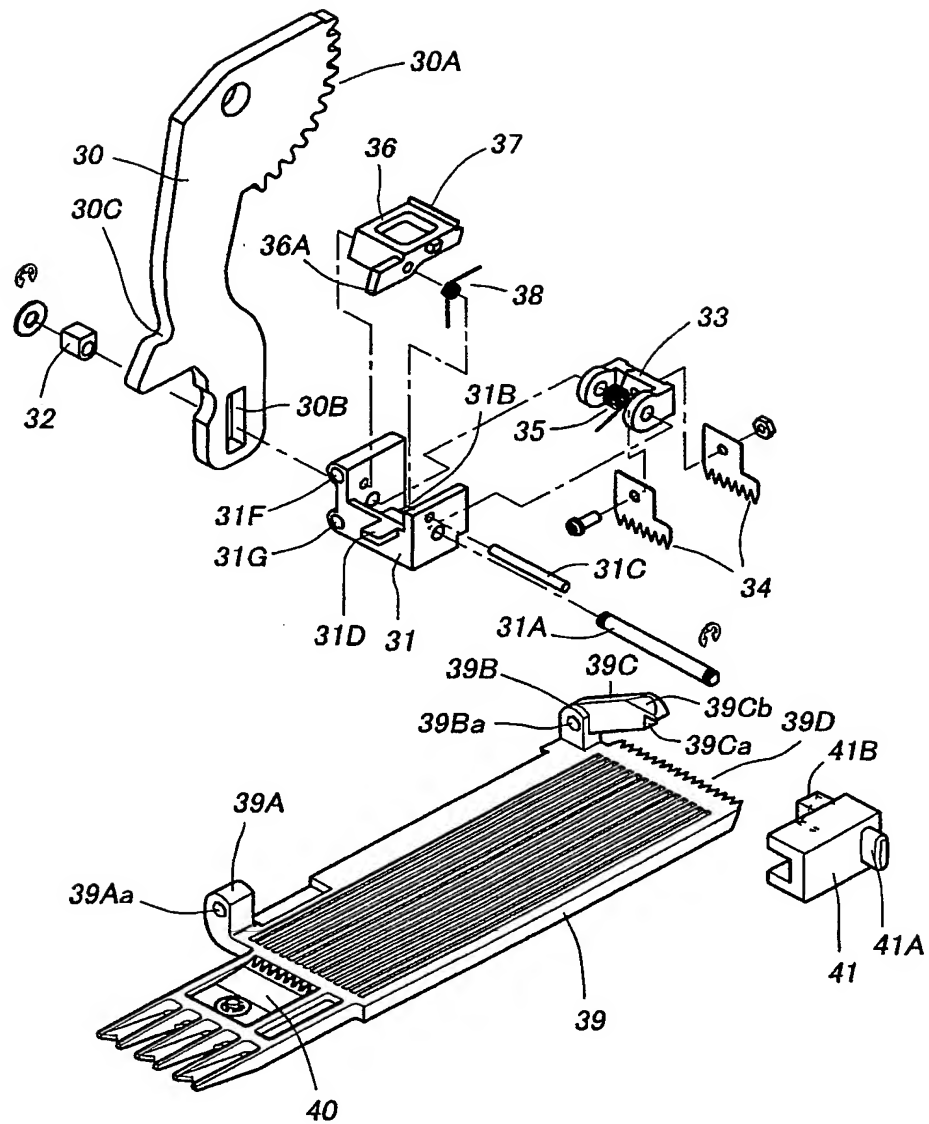
【図 4】



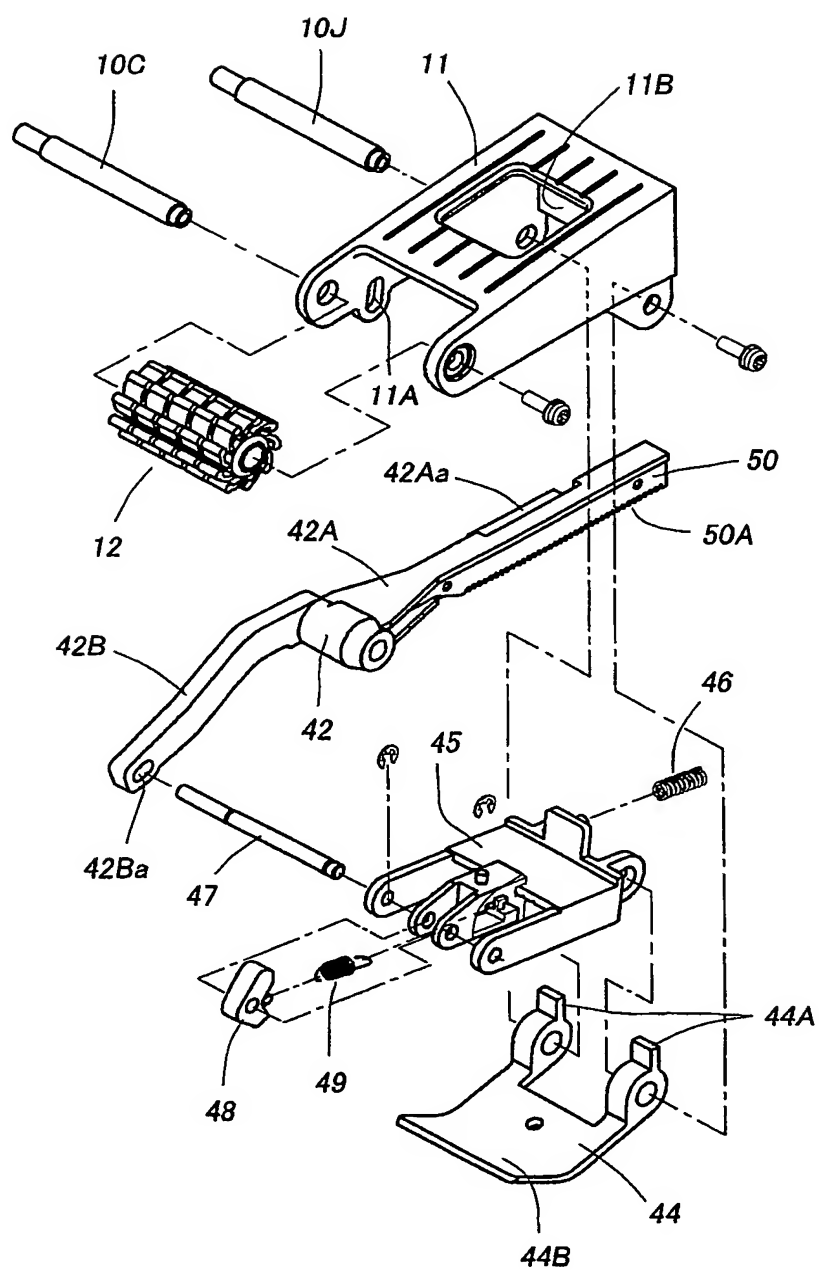
【図 5】



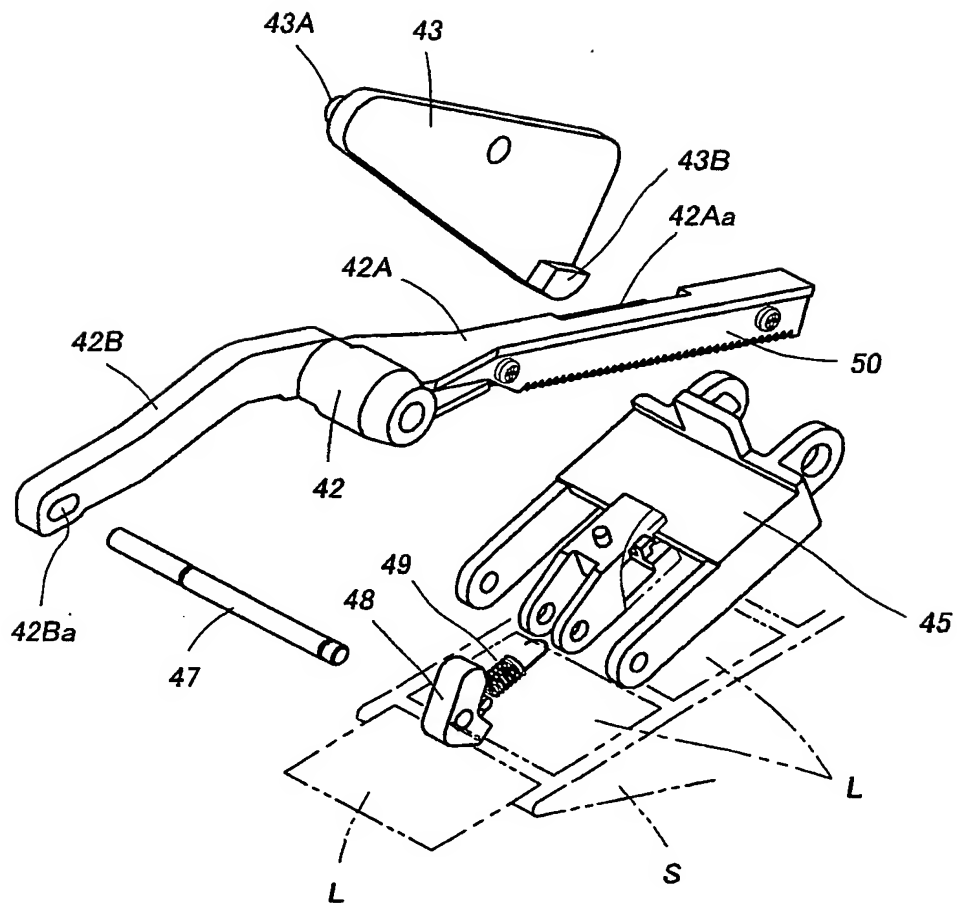
【図 6】



【図 7】



【図 8】



## 【書類名】要約書

## 【要約】

【課題】従来のラベル貼着機は、ラベルを台紙から剥離して繰り出させる本体のグリップに対する手動レバーの把握操作量が、ラベルの長さに比例して多くなるもので、短いラベルほど、把握操作の停止される時期が早く、把握操作が手を充分には握っていない突っかかる感じで、充足感の無い把握操作の繰り返しは、人間工学的に疲れやすいものである。

【解決手段】本体のグリップに対する手動レバーの把握動作と釈放動作において、把握動作では釈放動作の付勢力を蓄積させるだけにして、釈放動作でラベル連続体における台紙を移送してラベルを台紙から剥離させ、その釈放動作が、ラベルの長さに対応した時点で自動的に停止するようにする。

【選択図】図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-434123
受付番号	50302150010
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成16年 1月 5日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成15年12月26日

特願 2 0 0 3 - 4 3 4 1 2 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 5 9 1 1 1 0 0 7 8 ]

1. 変更年月日 1 9 9 1 年 5 月 2 7 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都北区堀船4丁目12番15号  
氏 名 株式会社新盛インダストリーズ